



公益財団法人愛知県文化振興事業団

2020年1月5日(日)  
愛知県芸術劇場  
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)  
広報・マーケティンググループ  
☎ 052-955-5506

速報

<Press Release>

報道各位



第19回

AAF 戯曲賞

Aichi Arts Foundation Drama Award

## 受賞作品決定についてのお知らせ

平素より愛知県芸術劇場の活動につきまして、ご理解・ご支援賜りありがとうございます。  
さて、見出しのとおりプレスリリースを送付いたします。  
ご多忙中恐縮ですが、ご一読の上、ご取材等いただければ幸いです。

### 約2時間半にわたる白熱した議論の末、大賞・特別賞が決定！

本日、1月5日(日)に開催しました「第19回AAF戯曲賞」の最終審査会において、大賞および特別賞が決定しました。

今回は、全国から136作品のご応募をいただき、現代の演劇界をリードする白神ももこ(演出家・振付家・ダンサー、「モモンガ・コンプレックス」主宰)、鳴海康平(演出家、「第七劇場」代表)、三浦基(演出家、「地点」代表)、やなぎみわ(美術作家・舞台演出家)の4名が審査員として参加。選考にあたり、審査員が全作品を読み終えた後、一次、二次、最終審査と3回におよぶ審査を実施しました。

最終審査では、観客の前で熱い議論を繰り広げた末、最終審査にノミネートした4作品から大賞(1作品)に『ねー』(小野晃太郎)、特別賞(1作品)に『うまく落ちる練習』(三野新)が選出されました。大賞受賞作品の『ねー』は、2021年度以降に当劇場のプロデュース公演として、愛知県芸術劇場小ホールにて上演する予定です。

### AAF 戯曲賞とは…

2000年より開始した、上演を前提とした戯曲賞。当劇場主催のもと、次代を担う劇作家および後世に残す戯曲を発掘。作家と演出家・作品と観客が出会い、価値観を創出することを目的としている。  
15年より「戯曲とは何か」という提題を設け、演劇の可能性に挑戦し続けている。

#### お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

広報・マーケティンググループ(小出) 企画制作グループ(山本)

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 ☎ 052-955-5506 Fax 052-971-5541

Mail: [mkt@aaf.or.jp](mailto:mkt@aaf.or.jp)

<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>



左から、三浦基、白神ももこ、小野晃太郎(大賞受賞者)、やなぎみわ、鳴海康平

大賞(1作品) | 『ねー』 おの こうたろう 小野 晃太郎 作品概要 (応募者原文)

今の物語を書かなければいけないと思った。そう考えたときに

1. 戦う
2. 戦わない
3. 戦えない

の三部作の構想が頭に浮かんだ。

これは3. 戦えない戯曲として書いたものになる。

執筆にあたり、身の回りの様々なことと、池袋アクエリアス昏睡レイプ事件に着想を得た。事件の仔細は被害者による匿名のツイッターで綴られ、匿名である理由の深刻さとは裏腹に、多くの名もなき人々の言葉は、被害の告白を虚言扱いをすることによって、事件の存在すら否定するものだった。被害者の文体が、知人によく似ていると思った瞬間、嫌な想像で頭が支配され、私にとって、事件は他人事ではなくなった。不特定多数のセカンドレイプを目の当たりにして、とても不愉快になり、怒りが湧いたが、自分は無力だともおもった。今は名前を出して戦う時代である。事件の被害者は、名前を出して戦うことによって、今までの人生が破壊されると考えた。彼女は泣き寝入りすることを選んだ。

同世代の俳優や作り手が、現在の政治や生活に絶望していること、上の世代との意見の隔たりが気になった。様々な価値観や考え方が並行してはしる中、その煩雑さに耐えることで、なにかが見えてくるのではないかと思ったのと、『面倒くさい』という暴力的な放棄とマウンティングに対抗してみたいと思った。



**小野 晃太郎 プロフィール**

2008年日本大学芸術学部演劇学科劇作コース入学と共に戯曲を書き始める。  
2015年個人ユニット、シニフィエを立ち上げる。ドラマトウルクとして活動中。

特別賞(1作品) | 『うまく落ちる練習』 <sup>お</sup>れんしゅう <sup>み</sup>のあらた 三野新 作品概要 (応募者原文)

人間が絶滅に向かう世界で、「わたしたち」の頭のなかは、これからすぐにどう死ぬべきなのか？ということとていっばいだ。今日も「投身練習場」と呼ばれる健康増進パークは、リラクゼーションミュージックと仮囲いの部屋に囲まれた「清潔で安全な」場所の中で営業している。うまく落ちられなかった「わたし」の『息』は誰にも聞こえることはなかった。

「わたし」は誰もいなくなっても、投身練習を続けていく。「うまく落ちる」練習を続ける「わたしたち」は、身体に何を宿らせて、落ちていくのだろうか。そこには、絶望から始まり、絶望で終わるといふ、また別のあり方としての希望を描き出そうとするものだ。

### 三野 新 プロフィール

2017年に演劇を主に行うカンパニーであるニカサンを旗揚げし、写真と劇作と演出を担当する。演劇活動は、2010年より劇作と上演を行っている。2017年第17回AAF戯曲賞に「人間と魚が浜」で最終選考まで進んだ。